

100歳の母に 1日でも長く生きてほしい

100歳の患者さんが来られたこともあります。

100歳というと、「大往生」と思いがちですが、ご家族としては「母には、1日でも長く生きてほしいです」と。本気で、そう思っておられるんですね。

こういうときって、点滴や利尿剤を増やしたりして、薬物に頼ってしまいがちなんですけど、どちらも頼りすぎると死に追いやるものです。利尿剤は効きすぎると、脱水症状になってしまいますから。

この方は、はじめは1カ月くらいかなと思っていたんですが、命って不思議なもので、こちらのコントロール下におくことができないうすね。結局3カ月くらい、こ

のような状態が続いたでしょうか。そうやって持久戦に入っていました。

ご家族も、毎日細かく状況を聞かれる。こちらも「できるだけ要望に応えたい」と思いながらも、他のことで手いっぱいなときはそうもいきません。相手の気持ちを汲むって、本当に難しいんです。言いなりになってはいけませんし。

こういうときって、「寄り添う」みたいなことを言い出すと、たいてい失敗します。でもちょっとした日々の心遣いと言いますか、ちょっと部屋を暖かくしたり、寝苦しそうなのでクッションを足したりすると、そのスタッフの様子を見てご家族が「心を許してもいい」って思われるみたいです。

そうやって少しずつ、流れの中にもにしていることができるようになりました。ともに見ていこうかと。

100歳生きてても、「まだ生きてほしい」というご家族の要望を尊ぶ。そのことを教えてくださったご家族でした。